

テーマ

# もしかしたら？ どうしてうちの子が！ — いじめの理解と対応 —

IV-1

ねらい

いじめの現状を理解するとともに、親や身近な大人として子どもの心を受け止める大切さについて理解し、親としての対応について考えるきっかけとする。

対象

小・中学生の子どもを持つ保護者

展開



## ♪エピソード♪

ここ数日、息子の表情がさえません。「どうしたの？」  
「具合が悪いの？」と聞いても、視線も合わせず自分の部屋へ行ってしまいます。いつも友だちから連絡が入るのですが、それもこのところないようです。勉強どころか、食事ものどを通らず、とうとう今朝は、「学校へ行きたくない。」と訴えてきました。もしかしたら、いじめ…？

## ♪エピソード♪

今日、息子の担任から電話があり、「友達関係のことで、話がしたい。」と連絡が入りました。話を聞いてみるとどうもうちの息子が友達をいじめていたらしく、驚くやら情けないやら。どうしてうちの子が…と思うばかりです。

ワーク1 エピソードの感想を話し合しましょう。

ワーク2 子どものいじめのサインについて理解し、ことばにならないメッセージについて話し合しましょう。

- (1)チェックリスト(資料編P37)を使って、「いじめられている子ども」「いじている子ども」のサインについて理解しましょう。
- (2)チェックした状況や日頃の様子から、感じていることを話し合しましょう。

ワーク3 ことばにならないサインに気付くために、日ごろから家庭の中で、あるいは大人として子どもとどのようなかかわりを持てばよいか話し合しましょう。

ワーク4 親や身近な大人として、いじめへの対応の仕方を話し合しましょう。(資料編P38参照)

## 活用のポイント

### ◎ 展開する際に押さえておきたいポイント

- ・いじめは許されない行為という毅然とした態度が基本です。いじめは、犯罪行為になる場合やいじめから自殺が危惧される場合もあることもふれましょう。
- ・日々の生活の中で、子どもへの共感を基盤にコミュニケーションを図ることの大切さについて話し合しましょう。
- ・対応の仕方については、個々の場合によって異なるので、それぞれの経験談に応じて大切なことを確認していくとよいでしょう。

### ◎ アレンジアドバイス

- ・ワーク1を省略して、ワーク2から入ってもいいです。
- ・このような問題に悩む保護者のために相談機関を紹介するとよいでしょう。(資料編P38参照)

テーマ

## 子どもの携帯電話 どう考えますか？ － 危険性を認識しましょう －

IV-2

### ねらい

子どもたちにも普及が進んでいる携帯電話には便利な機能がある反面、使い方次第では犯罪に巻き込まれたり、いじめの温床になったり、性的な被害にあったりと、様々な危険性を合わせ持っていることを認識し、親として子どもがそのようなものに巻き込まれないようにするにはどのようなかかわりを持たなければよいかを考える。

### 対象

小学校高学年～高校生の子どもの持つ保護者

### 展開

#### ワーク1

自分の子どもや街中で見かける中高生などの携帯電話の使い方について、思うことを自由に話し合しましょう。

#### ワーク2

携帯電話に潜む危険性について、あげてみましょう。

#### ワーク3

資料をもとに、携帯電話の危険性について知りましょう。(資料編 P39、40 資料1・2 参照)

#### ワーク4

子どもを被害者にも加害者にもさせないために、日頃から親としてどのようにかかわることが必要かを考えましょう。



### 活用のポイント

#### ◎ 展開する際に押さえておきたいこと

- ・話し合いが、携帯電話を買い与えなければよしとする安易な方向に展開しないように注意し、携帯電話を避けて通るのではなく、親としてのかかわり方を考えるようにしましょう。
- ・犯罪や被害についてだけでなく、子どもたちのメールでの言葉遣い(「ウザイ」「キモイ」「死ね」など)にも問題があることを押さえられるとよいでしょう。
- ・携帯電話の問題といっても結局は人と人との関係であることを押さえましょう。
- ・携帯電話を持たせる、持たせないも、持たせた際のマナーを身につけさせるのも、すべて親の責任であることを押さえましょう。

#### ◎ アレンジアドバイス

- ・時間が短いときは、ワーク2はやらなくてもよいでしょう。
- ・資料の代わりに、文部科学省委託事業において作成されたDVD「ちょっと待って、ケータイ被害者にも加害者にもならないために」を活用してプログラムを展開してもよいでしょう。
- ・最後に「とちぎの子どもを携帯電話の危険から守る行動アピール」(資料編P41、42資料3参照)を提示してもよいでしょう。

テーマ

## 学校に行きたくない — 親としての対応 —

IV-3

ねらい

どの子どもにも不登校になる可能性はある。子どもの悩みを真剣に受け止め、子どもと向き合えるきっかけとすると同時に、予防的なかかわりの重要性についても考えるきっかけとする。

対象

小学生～中学生の子どもを持つ保護者

展開

### ♪エピソード♪

もう何日も前から、子どもが「学校に行きたくない」と言っています。「どうしたの?」とたずねても何も答えません…。



ワーク1 このエピソードを読んで、感想を話し合しましょう。

ワーク2 子どもが学校を休みたがる原因にはどのようなものが考えられるでしょうか。

ワーク3 子どもと接するとき、日頃から心がけたいことをまとめましょう。

### 活用のポイント

#### ◎ 展開する際に押さえておきたいこと

- ・学校へ行きたくなくなる子どもの気持ちについて理解を深め、日頃から親としてどのように接すればよいのか話し合いを深めましょう。
- ・「親のしつけが悪いから」等の親への批判や「学校の対応が悪いから」等の学校批判といった展開にならないように注意しましょう。
- ・ワーク1では、自分がこの子の親だったらどう対応するかについて話し合えるよう投げかけましょう。また、参加者の経験を引き出すようにしてもよいでしょう。
- ・参加者の中には実際に悩んでいる方もいるかもしれないことを考慮しましょう。また、資料2、3（資料編P44参照）を活用して不登校への対応について理解を深めましょう。
- ・養護教諭等と連携をとり、お話を伺ってもよいでしょう。（まとめ、子どもの様子など）

#### ◎ アレンジアドバイス

- ・時間が短いときは、ワーク2で資料1を先に提示してから話し合ってもよいでしょう（資料編P43参照）
- ・資料4（資料編P45参照）を最後に示して、具体的な活動につなげてよいでしょう。

テーマ

# 本当に大丈夫ですか？ — 思春期の男女の付き合い方 —

IV-4

ねらい

思春期は発達段階で異性や性への関心が高まる時期である。子どもたちの性や男女の付き合い方について、家庭でどうかかわるかについて考える。

対象

中学生～高校生の子どもの持つ保護者

展開

## ♪エピソード♪

高校1年生の男子、同じ学校の同級生の女子を好きになり交際するようになりました。交際してから最初のころは休日に映画を見たり、遊園地に行ったりしてデートを重ねていましたが、最近では、互いの家を行き来して、二人で夜遅くまで過ごすことが多くなってきました。両家は二人と一緒に食事をするなど家族ぐるみのつきあいをしています。



ワーク1

エピソードを読んで、二人の付き合い方についてどう感じましたか。良い点や悪い点を話し合ってみましょう。

ワーク2

子どもの異性との付き合い方について、現在取り組んでいることやこれから子どもに伝えたいことについて意見を出し合ってみましょう。

ワーク3

ワーク2をもとに、子どもの異性との付き合い方について「我が家のルールづくり」をしましょう。

## 活用のポイント

### ◎ 展開する際に押さえておきたいこと

- ・ワーク1では、エピソードについて話し合うだけでなく、経験や日頃感じていることなどについても自由に意見を出せるよう投げかけましょう。
- ・ワーク3で作成したルールが、家庭で子どもと異性との付き合い方について語り合うきっかけとなることを伝えましょう。
- ・ルールづくりについては、プログラムでの話し合いをもとに各家庭で作成してもらうこともできます。

### ◎ アレンジアドバイス

- ・時間がないときは、ワーク2と3を合わせて実施することもできます。
- ・性に関する現状についてふれることもできます。その場合は、資料を提示したり(資料編P46、47参照)、養護教諭等に子どもの実態や性に関する現状について話をしてもらってもよいでしょう。
- ・このエピソードは、両家の仲が良いために、子どもの男女交際を放任しているケースです。最後の一文を省略したケースを話し合うこともできます。